

令和6年度

学校評価書



- | | |
|------------------|-----|
| ○白州中学校グランドデザイン | P 1 |
| ○本年度の経営の方針 | P 3 |
| ○生徒保護者アンケートの結果から | P 4 |
| ○学校関係者評価会議より | P12 |
| ○成果の概要 | P13 |
| ○来年度への継続・改善事項 | P14 |

北杜市立白州中学校

令和7年3月14日 校長 吉原 仁実

1 白州中学校グランドデザイン



令和6年度 北杜市立白州中学校グランドデザイン

学校教育目標

豊かな心、自ら学ぶ力とたくましく
生きる力を育む白州中教育

国 第四期教育振興基
本計画
学習指導要領

県 山梨県教育大綱
(山梨県教育振
興基本計画)
山梨県学校教育
指導指針

めざす生徒像

- 自ら考え、自ら学ぶ生徒
- 情操豊かで、思いやりのある生徒
- 心も身体も健康でたくましい生徒
- 自分を生かし、互いに高め合う生徒
- 勤労を尊び、人の役に立つ生徒
- 高い志を持ち、最後まであきらめずにやりぬく生徒

市 北杜市総合計画(教
育大綱)
「原っぱ教育」
『不屈の精神と大使を
もった人材の育成』

生徒の実態
地域の特色
保護者の願い
地域の願い

確かな学力の育成

- 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着
- 子供を主体とした「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善
- 学びを自己調整しながら粘り強く取り組む態度の育成
- 家庭学習の充実と習慣化
- ICTを活用した授業づくり

豊かな心の育成

- 自己肯定感や自己有用感を高め、仲間との絆や心の居場所のある学校・学級づくり
- 校内支援教室「ひまわり」の効果的な運用
- いじめを許さない集団の構築と愛情と信頼に基づく「みんなで育てる生徒指導」の推進
- 「朝読」「家読」などの読書活動の充実
- 体験的活動・文化芸術活動を通じた豊かな人間性や社会性の育成
- 道徳の授業を核とした道徳教育の充実
- 生徒会活動・学級活動の活性化を図り、自主的・実践的态度の育成

健やかな身体の育成

- 教育活動全体を通じて、いのち・体力・健康・食・安全に関する理解を深め、基本的生活習慣定着のための指導の充実
- 進んで運動に親しみ、体力の向上
- 危機、防災への実践力の向上

特別支援教育の充実

- 特別支援教育に関する専門性の向上
- 生徒一人一人の個性の伸長

郷土を愛し、未来を切り拓く人材の育成

- 創立70周年を迎える、生徒や教師が「誇り」をもてる学校づくり
- 「地域とともにある」学校づくり
地域資源(ひと・もの・こと)の積極的な活用を図る
- 体系的なキャリア教育の推進

意欲と情熱あふれる職員集団で 支援・指導

- 生徒への深い愛情、職務への深い使命感をもち、支援・指導にあたる。
- 学び続ける教職員集団を構築する。
- 教職員の信頼関係を基盤に、支え合いながら教師力を高め、活力ある学校運営を行う。
- 働き方改革、心身の健康の維持増進に向け、全職員が協働して取り組む。

保護者・地域との連携

- ホームページ、学校便り、その他各種通信を通して情報を積極的に発信し、保護者・地域に対し、学校教育活動への理解の醸成に努める。
- 地域素材の教材化や保護者・地域の人材活用に努める。
- 地域と連携した安全管理体制を整備する。
- 保護者・地域の願いを把握し、地域に根ざした学校運営(白州小中学校運営協議会との連携)を推進する。



令和6年度 白州中学校の「原っぱ教育」

北杜市 教育の目標
不屈の精神と大志をもった人材の育成

北杜市 目指す子ども像
夢を持ち 未来を切り拓く
心身ともにたくましい
北杜の子ども

学校教育目標

豊かな心、自ら学ぶ力と
たくましく生きる力を
育む白州中教育

北杜市 基本方針
I 魅力ある学校づくり
を目指します
II 信頼される学校づくり
を目指します
III 時代に即した教育環境
整備に努めます

※

I 魅力ある学校づくりを目指します

目指す白州中の生徒像
○自ら考え、自ら学ぶ生徒

目指す白州中の生徒像
○心も身体も健康でたくましい生徒
○勤労を尊び、人の役に立つ生徒
○高い志を持ち、最後まであきらめず

II 信頼される学校づくりを目指します

目指す白州中の生徒像
○情操豊かで、思いやりのある生徒
○自分を生かし、互いに高め合う生徒

- (1) 特色ある教育の推進
 ①市内の自然や地域資源を活かした体験的活動、探究的活動の推進（ひどもの）
 ・1年校外学習－北杜市の文化を学ぶ体験
 ・地域芸能の鑑賞と体験（雅楽・神楽等）
 ・家庭科「食文化を学ぶ」調理実習
 ②情報活用能力を育てる教育の推進
 ・デジタル教科書・1人1台端末等の有効活用
 ・タピング練習機会の充実
 ③社会の変化に対応し幅広く学習する基盤づくり
 ・NIEを活用して多様な考え方を知り、考え方を深める
 ④水育、食育を通じた環境教育の推進
 ・地域企業と連携した水育の授業の実施
 ⑤小中学生の交流
 ・小学生に向けた授業の実施
 ⑥清掃活動の充実
 ・協働体制による日常清掃・環境整備活動の推進（教師・生徒・保護者連携）
 (2) 確かな学力の向上
 ①「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善
 ・やまなしスタンダード「授業づくりの7つの視点」に基づく基礎的・基本的な知識・技能の定着
 ・子供を主体とした「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくり
 ・探究課題を取り入れた総合的な学習の時間の充実
 ・全国、県等各種検査結果の分析と活用
 -数学チャレンジの取組
 ②補充学習の充実
 -放課後学習会（テスト前）の実施
 -長期休業中の「ほくと学び舎」との連携
 -定期テストの実施（年4回）と学力テストの実施（教達検査等）
 ③家庭と連携した主体的な家庭学習の習慣づくり
 -課題や内容の工夫
 -家庭学習記録表の有効活用
 ④「学びのみならむ」（学習の手引き）の活用
 ⑤学習強化時間の設定（定期テスト前）
 -生徒会の自治的な取組

- (3) 豊かな心と健やかな身体の育成
 ①70周年記念事業の実施
 -卒業生を招いた記念事業「芸術鑑賞会」
 ②読書活動の推進
 -毎週月・火・木 10分間
 -家読の推進（PTAとの協力）
 -学校図書館の活用促進
 ③部活動の推進
 -朝、放課後の練習
 -運動部-対外試合、大会出場
 -吹奏楽部-町内演奏会、コンクール出場
 ④地域人材を活用した道徳教育の推進
 -授業公開・参観・情報交換（保護者）
 ⑤体力の向上
 -「全校レクを通じての体力向上の取組
 -体力テストの結果分析と課題への取組
 ⑥北杜市一周駆伝大会へ選手派遣
 (11月-代表)
 ⑦食育の推進（一校一実践の充実）
 ⑧基本的な生活習慣の定着に向けた取組
 (生徒の自主的な取組と学校保健委員会での発表)
 (4) 自立して生きる力の育成
 ①キャリア教育の充実（ひと・もの・こと）
 -白州地区の事業所における職場体験（2年3日間）
 ②「駒里発表会」の開催
 -2年職場体験の成果発表（対象-1年生、保護者に向けて）
 ③ボランティア活動
 -生徒会・委員会での日々の取組
 -ふれあい集会の実施（障がいを持っている方との触れ合いと学習の機会）（ひと）
 ④優れた文化や芸術に触れる機会の創出（ひと）
 -芸術鑑賞教室の開催（武川中合同開催劇）

- (5) いじめ・不登校対策の推進と教育相談の充実
 ①いじめ・不登校防止への取組
 -校内支援教室「ひまわり」の開設と効果的な運用
 -北杜市いじめ防止アクションプランの実施
 -「いじめ撲滅宣言」の取組
 (生徒会による主体的な取組)
 -「楽しい学校生活を送るためにアンケート」(いじめ把握調査)の実施(学期2回)と対応
 -いじめ防止対策委員会の開催(年3回)
 ②学級づくり・集団づくり・居場所づくり
 自己存在感・有用感・充実感の醸成
 -hyper-QUテストの実施(年2回)と分析、分析をもとにした支援
 ③生徒が主体・主役となる学校行事・生徒会活動の充実
 -こまざき祭(学園祭)・合唱祭等
 ④全校応援活動・生徒会の取組
 ⑤国際理解教育の充実・ALT等との交流等
 (6) 安全・安心な学校体制
 ①登下校時の安全確保と指導および地域住民の協力体制の構築
 -わんわんパトロール隊との連携
 ②危機・防災意識の向上
 -学区の防災と防犯体制の充実
 ③防災学習会の実施
 -心肺蘇生法、三角巾を使用講習会の継続
 -地域の担い手としての防災意識の向上
 (7) 家庭・地域との連携と協働
 ①コミュニティ・スクールの推進
 -白州小・中学校運営協議会の部会活動開始
 ②「我が家のスマホ・ケータイの扱い」の取組
 -家庭生活の見直し(テレビ、スマホ、携帯電話、パソコン、ゲームの時間の見直し)
 ③地域の行事への参加(こと)
 -白州地区文化祭への出演(吹奏楽)展示
 ④「PTA早朝奉仕作業」の協働実施
 (年2回敷地内の除草、片付けの作業)
 ⑤授業や行事の積極的公開と参加促進
 ⑥ホームページ、学校便り、その他各種通信を通して積極的に情報発信
 ⑦学校評価の適切な実施とPDCAサイクルの確立(学校運営協議会との連携)

III 時代に即した教育環境整備に努めます

- (8) 教職員の働き方改革への支援
 ①部活動指導員の配置
 ②最終退勤時間の設定と管理職の声かけの推進
 ③教職員の信頼関係を基盤とした支え合い・学び合い(同僚性の構築)

- (9) 施設の計画的な維持管理・整備
 ①安全点検の定期的な実施・報告
 -改善箇所等は関係機関と早期対応・協議

※

令和6年度 学校教育目標及び教育方針

1 学校教育目標

「豊かな心、自ら学ぶ力とたくましく生きる力を育む白州中教育」

【めざす生徒像】

- 自ら考え、自ら学ぶ生徒
- 心も体も健康でたくましい生徒
- 勤労を尊び、人の役に立つ生徒
- 自分を生かし、互いに高めあう生徒
- 情操豊かで、思いやりのある生徒
- 高い志を持ち、最後まであきらめずにやりぬく生徒

2 学校教育目標設定の理由

VUCA時代と呼ばれる現在、これからの中学生たちは、持続可能な社会の担い手として、多様性を認めながら、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待される。こうした状況を踏まえ、その基盤を担う学校教育においては、「**様々な変化に積極的に向き合える生徒**」「**他者と協働して課題を解決できる生徒**」「**多様な情報を見極め、再構築できる生徒**」を育成していかなければならない。

生徒たちを取り巻く環境の変化により学校が抱える課題も複雑化・困難化する中で、学校と社会が同じ目標を目指し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を育んでいくことが求められている。

社会の変化に柔軟に対応できる力を育むために、**心身ともにたくましく生き抜くことができる人づくり**を育成の基盤にして、自ら課題を見つけ自ら解決し、それを次にいかしていける力（自ら学びに向かう力を高めること）と人としてよりよく生きようとする力（豊かな心を育むこと）を車の両輪として位置づけ、本校の教育の柱とするべくこの目標を設定した。

3 学校経営の方針

豊かな自然に囲まれた本校の生徒は、明るく素直である。人に優しく、生徒同士も、生徒と教師の間でも気軽に話し合う姿がある。一方、**社会性に乏しく、自分を表現することや、仲間と共に更によくなろうと問題解決を図る意欲等に課題**がある。様々な人に出会い、いろいろな事に気付き、深く考え、状況に応じた言動のとれる生徒、社会性のある生徒を一層目指して自律・自立できるようにする。

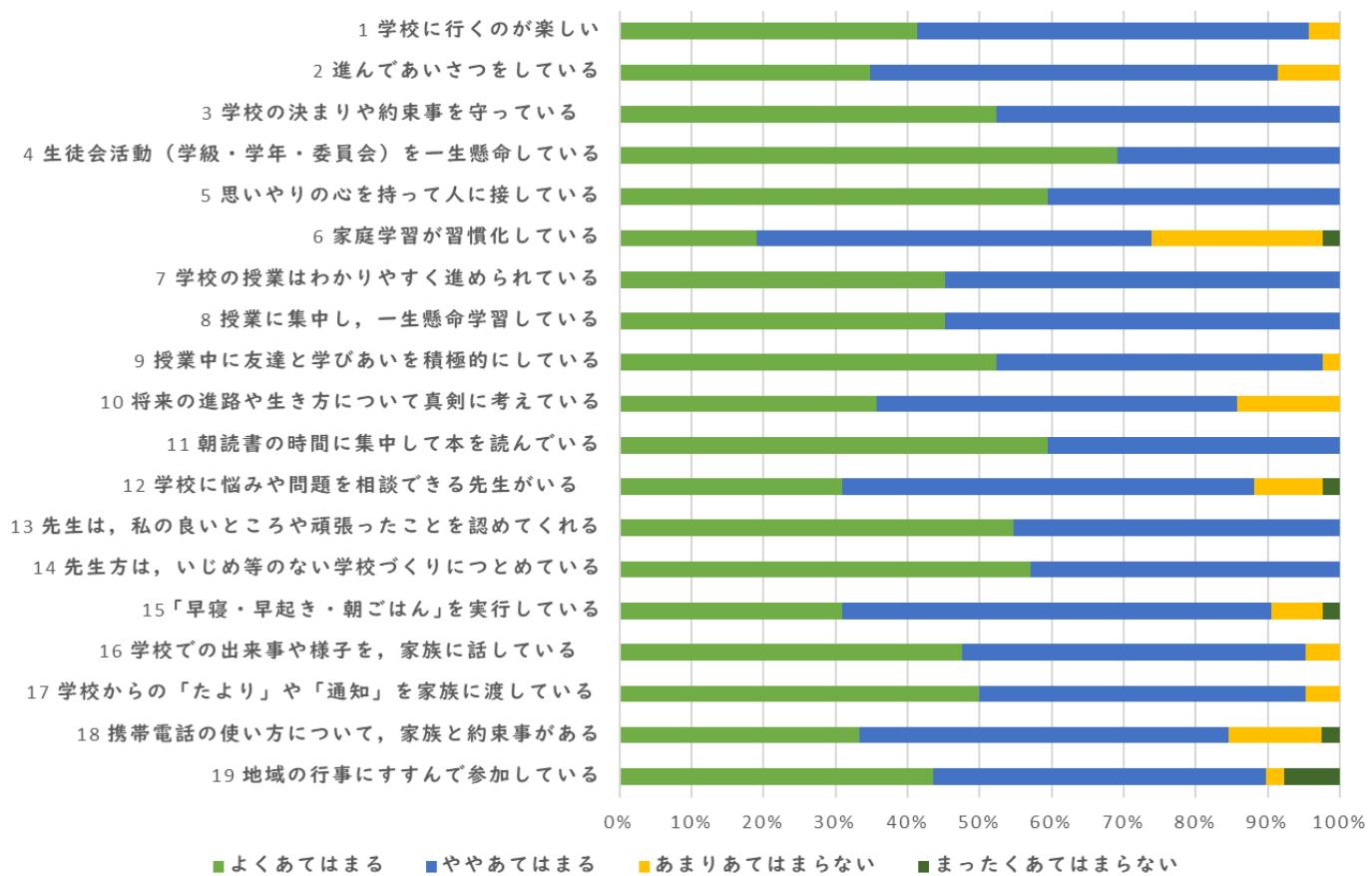
中学校3ヶ年は義務教育のまとめの時期であり、社会人になる準備期間である。子どもと大人の中間点としての中学生が将来にわたって、自分自身をよく知り、自分の良さを生かすとともに**社会の一員としての言動ができるように育ててゆく必要**がある。小規模校としてのメリットを最大限に生かして、**生徒一人一人が活躍できる機会の充実と教師の授業力の向上**を目指したい。

学校教育目標を具現化するために次のようなことに重点を置いて今年度の教育を行っていきたい。

- 1 地域や生徒の実態に則した教育目標を設定し、**特色ある学校づくり**に努め、教師や生徒が学校に「誇り」がもてる学校経営を行う。また、地域資源（ひと・もの・こと）の積極的活用を図り、地域と一緒に子どもたちを育む**地域とともにある学校づくり**に取り組む。
- 2 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着と**生徒を主体とした「主体的・対話的な学びを繰り返しながら深い学び」**を実現する授業改善を行う。また、授業と家庭学習の繋がりをつくり、家庭学習の充実と習慣化を図る。
- 3 各教科・特別の教科 道徳・特別活動・総合的な学習の時間の本質を踏まえ、**生徒が自ら課題を見つけ、自己調整しながら粘り強く取り組む態度の育成とICTを活用した授業**を行う。
- 4 特別支援教育に関する専門性の向上を図り、指導方法を工夫して、**生徒一人一人の個性の伸長**を図る。
- 5 自己肯定感や自己有用感を高め、**仲間との絆づくりや心の居場所のある学校・学年づくり**に取り組むと共に愛情と信頼に基づく「みんなで育てる生徒指導」に努め、「いじめ」を許さない集団の構築と活動の充実を図る。
- 6 朝読・家読等の**読書活動を充実させ**、深く考える力と豊かな感性を育てる。また、体験的活動や文化芸術活動を通じて、豊かな人間性や社会性を育む。
- 7 **生徒会活動・学級活動を活性化**し、生徒自身がよりよい学校生活を創るために取り組み、自主的・実践的な態度を育てる。部活動を生徒が互いに協力し合い、高め合いながら自らの適性や興味・関心をより深く追求していく機会にする。
- 8 教育活動全体を通じて**「いのち・体力・健康・食・安全」に関する理解を深め**、基本的生活習慣の定着を図るとともに、進んで運動に親しむ態度を育てる。
- 9 信頼される学校づくりのため、ホームページ、学校だより、その他各種通信を通して情報を積極的に発信し、保護者や地域に対して学校教育活動への理解の醸成に努める。また、**地域に根ざした学校運営(白州小中学校運営協議会との連携)**を推進する。
- 10 教職員が支え合い、学び合いながら**教師力を高め、活力ある学校運営**を行う。

2 生徒・保護者アンケート、教職員自己評価の結果から

令和6年度 白州中学校生徒アンケート



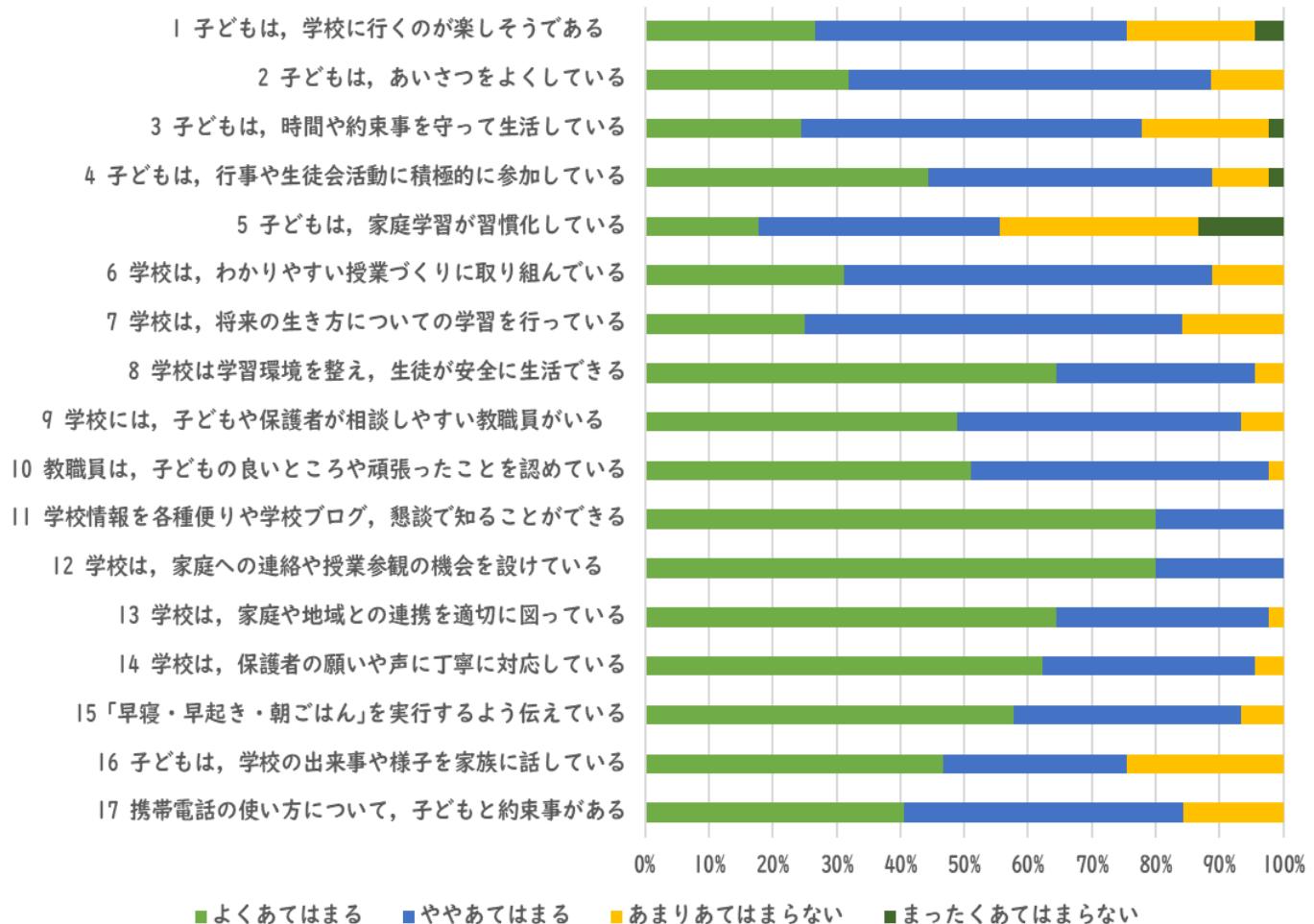
《成果と考察・改善事項》

- *生徒アンケートの結果、全19項目の中で肯定率が90%以上のものが15項目ある。このことから、学校生活・学習・教職員との関係・家庭生活において、多くの生徒が満足していると考えられる。
- *学校生活に関する内容のうち、項目3、4、5の肯定率が高く、学校の決まりを守り生徒会活動に一生懸命取り組み、思いやりの心をもって人に接していると考えていることがわかる。学校に行くことが楽しいとあまり思わない回答した生徒が2名いる。生徒にとって学校が楽しい場所であるように、今後も対話を大切にした学級活動を充実させていきたい。
- *学習・授業・読書に関する内容のうち、項目7、8、11の肯定率が高く、授業がわかりやすく進められ、集中して一生懸命取り組み、朝読書にも意欲的に取り組んでいるといえる。項目6の家庭学習の習慣化については、肯定率が7割、項目10の将来の進路や生き方についても6名が、あまり真剣に考えていない回答している。家庭学習の定着が、本校の課題となっている。学力向上キャラバンや家庭学習振り返りシート、放課後学習会などの取り組みを行ってきたが、数値上は成果が上がったとは言えない結果である。家庭と連携を図り、継続的な家庭学習が行えるよう指導していきたい。また、3年間を見通した、キャリア教育・進路学習を進めていきたい。
- *職員に関する内容では、項目13、14の肯定率が高いが、悩みや問題を相談できる先生があまりいない回答している生徒も5名いる。生徒一人一人に寄り添った指導にさらに努めていきたい。
- *家庭生活についての内容では、項目15の「早寝・早起き・朝ごはん」の肯定率がやや低い。また、項目18の携帯電話の使い方について家族との約束事があまりない生徒も6名いる。就寝時間が遅くなる傾向があるため、家庭と連携して指導をしていきたい。

令和6年度 学校評価 生徒アンケート集計結果

項目	回答人数 (46/55)				肯定的評価(A+B)の割合 % 後期	前期
	A	B	C	D		
I 学校生活に関するもの						
学校に行くのが楽しい	19	25	2	0	96	94
進んでいさつをしている	16	26	4	0	91	96
学校の決まりや約束事を守っている	22	20	0	0	100	100
生徒会活動（学級・学年・委員会）を一生懸命している	29	13	0	0	100	100
相手の嫌がることをしないなど、思いやりの心を持って人に接している	25	17	0	0	100	94
II 学習・授業・読書に関するもの						
家庭学習が習慣化している	8	23	10	1	74	69
学校の授業はわかりやすく進められている	19	23	0	0	100	100
授業に集中し、一生懸命学習している	19	23	0	0	100	98
授業中に友達と学びあい（課題解決のための対話やグループ活動）を積極的にしている	22	19	1	0	98	98
将来の進路や生き方について真剣に考えている	15	21	6	0	86	90
朝読書の時間に集中して本を読んでいる	25	17	0	0	100	100
III 先生に関するもの						
学校に悩みや問題を相談できる先生がいる	13	24	4	1	88	83
先生は、私の良いところや頑張ったことを認めてくれる	23	19	0	0	100	100
先生方は、いじめ等のなく安心して過ごせる学校づくりにつけている	24	18	0	0	100	98
IV 家庭での生活に関するもの、その他						
「早寝・早起き・朝ごはん」を実行している	13	25	3	1	90	92
学校での出来事や様子を、家族に話している	20	20	2	0	95	98
学校からの「たより」や「通知」を家族に渡している	21	19	2	0	95	83
携帯電話の使い方について、家族と約束事がある（持っていない生徒は「とてもあてはまる」を選んでください）	13	20	5	1	85	90
地域の行事にすすんで参加している	17	18	1	3	90	77

令和6年度 白州中学校保護者アンケート



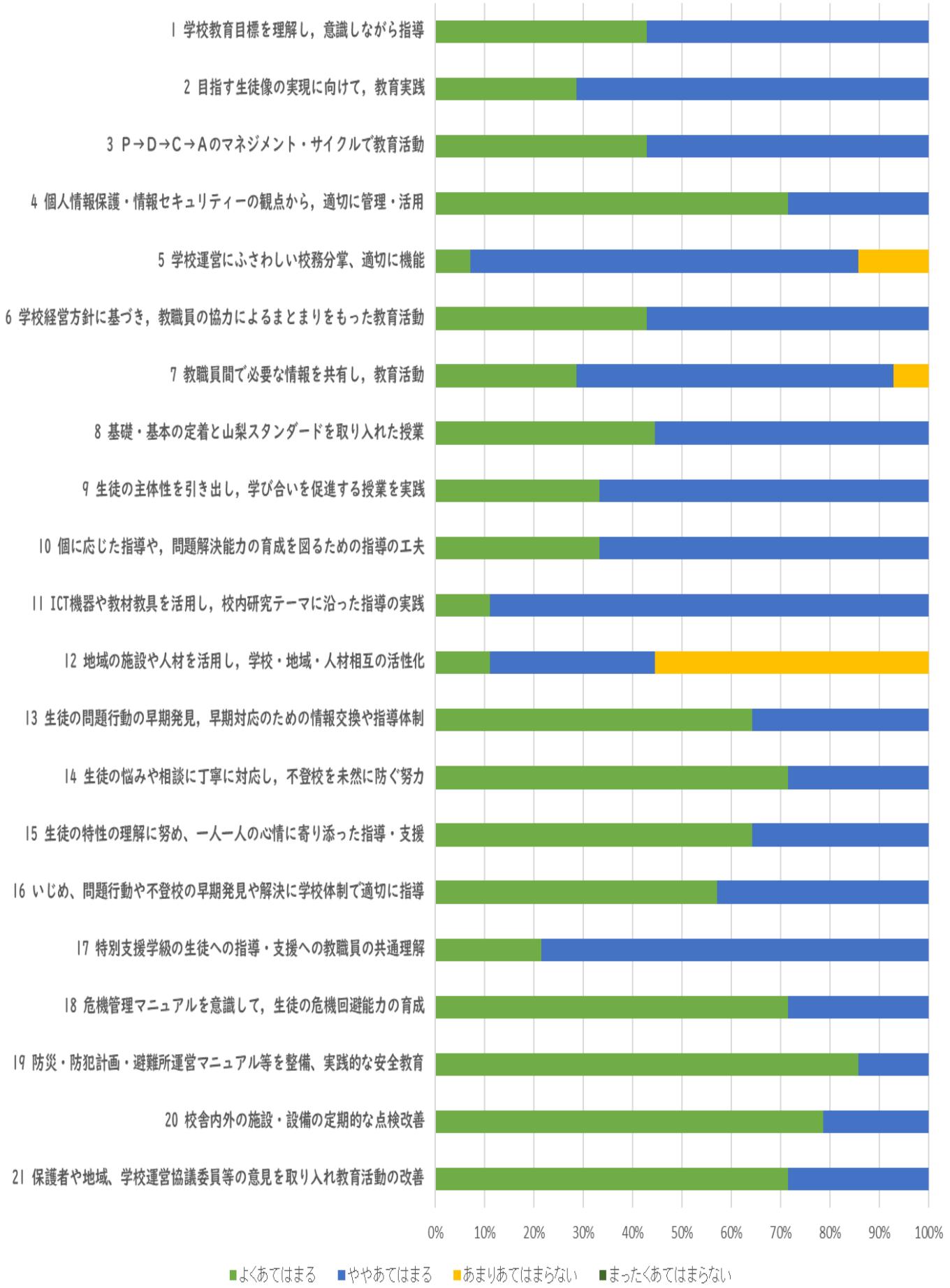
《成果と考察・改善事項》

- *保護者アンケートの結果で、全17項目中肯定率が80%以上となっているものは13項目である。このことから、学校生活・学習・教職員との関係・家庭生活について、おおむね理解を示していると考えられる。
- *学校生活に関する内容で、項目1の子どもがあまり楽しそうに学校へ行っていないと感じている保護者が11名いる。学校生活での生徒の様子や心の変化に気づき、声かけ等の対応を行いながら、学校生活を充実させるための支援をしていきたい。
- *学習・授業に関する内容のうち、項目5の家庭学習の習慣化については、20名があまりできていない、できていないと感じている。項目6のわかりやすい授業についても、5名があまりあてはまらないと回答している。主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、学習者が主体となるよう、校内研を軸に、授業改善に取り組んでいきたい。また、項目7の将来の生き方についての学習もあまりできていないと7名が感じている。職場体験や職業講話、高校のオープンスクールなどを活用しながら、キャリア教育を進めていき、保護者にも情報提供をしていきたい。
- *職員に関する内容は、項目8～14すべての項目で、9割以上の肯定率であった。これからもHPや安心メール、学校・学年・学級の便り、PTA活動などの情報提供を行い、学校の様子を知っていただき、地域や家庭との連携を深めながら、生徒の活動の支援をしていきたい。
- *家庭生活については、項目16の学校の出来事や様子を家族にあまり話していないと感じている保護者が11名いる。学校からの情報提供を積極的に行い、長期休業中には、しおりやくらしのノートを活用し、保護者と連携して今後も生徒の家庭での過ごし方を支援していきたい。

令和6年度 学校評価 保護者アンケート集計結果

項目	回答の人数 (38/45)				肯定的評価(A+B)の割合 % 後期	前期
	A	B	C	D		
I 学校生活に関するもの						
子どもは、学校に行くのが楽しそうである	12	22	9	2	75.6	82
子どもは、あいさつをよくしている	14	25	5	0	89	87
子どもは、時間や約束事を守って生活している	11	24	9	1	77.8	71
子どもは、行事や生徒会活動に積極的に参加している	20	20	4	1	88.9	92
II 学習・授業・読書に関するもの						
子どもは、家庭学習が習慣化している	8	17	14	6	55.6	50
学校は、わかりやすい授業づくりに取り組んでいる	14	26	5	0	88.9	89
学校は、将来の生き方についての学習を行っている	11	26	7	0	84.1	76
III 先生に関するもの						
学校は学習環境を整え、生徒が安全に生活できるようにしている	29	14	2	0	95.6	100
学校には、(子どもまたは保護者が)相談しやすい教職員がいる	22	20	3	0	93.3	87
教職員は、子どもの良いところや頑張ったことを認めている	23	21	1	0	97.8	97
学校情報を各種便りや学校ブログ、懇談などで知ることができる	36	9	0	0	100	100
学校は、家庭への連絡や授業参観の機会を設けている	36	9	0	0	100	97
学校は、家庭や地域との連携を適切に図っている	29	15	1	0	97.8	97
学校は、保護者の願いや声に丁寧に対応している	28	15	2	0	95.6	95
IV 家庭での生活に関するもの						
「早寝・早起き・朝ごはん」を実行するよう伝えている(している)	26	16	3	0	93.3	87
子どもは、学校の出来事や様子を家族に話している	21	13	11	0	75.6	82
携帯電話の使い方について、子どもと約束事がある (持たせていない場合は空欄)	13	14	5	0	84.4	88

令和6年度 白州中学校 教職員自己評価



令和6年度 教職員自己評価アンケート 回答数 14

4・・よくあてはまる 3・・ややあてはまる 2・・あまりあてはまらない 1・・まったくあてはまらない

I 学校教育目標に関わって(全教職員が回答)		4	3	2	1	後期	前期	肯定率
I	私は、学校教育目標を理解し、意識しながら指導にあたっている。	6	8	0	0	3.4	3.4	100
2	私は、目指す生徒像の実現に向けて、教育実践にあたっている。	4	10	0	0	3.3	3.4	100
II 学校経営と組織に関して(全教職員が回答)		4	3	2	1	後期	前期	肯定率
3	私は、P→D→C→Aのマネジメント・サイクルで教育活動に取り組んでいる。	6	8	0	0	3.4	3.3	100
4	私は、個人情報保護・情報セキュリティーの観点から、記録媒体や文書、諸表簿等を適切に管理・活用している。	10	4	0	0	3.7	3.9	100
5	本校は、学校運営にふさわしい公務分掌なされ、それぞれ適切に機能している。	1	11	2	0	2.6	3.0	85.7
6	本校は、学校経営方針に基づき、教職員の協力により、まとまりをもった教育活動の取り組みが行われている。	6	8	0	0	3.4	3.6	100
7	本校は、教職員間で必要な情報を共有(報告・連絡・相談・確認)し、教育活動に取り組んでいる。	4	9	1	0	3.1	3.3	92.8
III 学習指導に関して(授業担当教師のみ回答)		4	3	2	1	後期	前期	肯定率
8	私は、基礎・基本の定着と山梨スタンダードを取り入れた授業を実践している。	4	5	0	0	3.4	3.6	100
9	私は、生徒の主体性を引き出し、学び合いを促進する授業を実践している。	3	6	0	0	3.3	3.1	100
10	私は、個に応じた指導や、問題解決能力の育成を図るために指導の工夫や改善をしている。	3	6	0	0	3.3	3.2	100
11	私は、ICT機器や教材教具を活用し、校内研究テーマに沿った指導	1	8	0	0	3.1	3.0	100
12	私は、授業等で地域の施設や人材を活用して、学校・地域・人材相互の活性化を図っている。	1	3	5	0	2.6	3.2	44.4
IV 生徒指導・生徒理解を振り返って(全教職員が回答)		4	3	2	1	後期	前期	肯定率
13	私は、生徒の問題行動について早期発見、早期対応が行われるよう、情報交換や指導体制をとっている。	9	5	0	0	3.6	3.6	100
14	私は、生徒の悩みや相談に丁寧に対応し、不登校を未然に防ぐ努力をしている。	10	4	0	0	3.7	3.6	100
15	私は、生徒の特性の理解に努め、一人一人の心情に寄り添った指導・支援に取り組んでいる。	9	5	0	0	3.6	3.6	100
16	本校は、いじめ、問題行動や不登校の早期発見や解決に向けて、学校体制で適切に指導に取り組んでいる。	8	6	0	0	3.6	3.7	100
17	本校は、特別支援学級の生徒への指導・支援が教職員の共通理解のもとに行われている。	3	11	0	0	3.2	3.3	100
V 学習環境・生活環境に関わって(全教職員が回答)		4	3	2	1	後期	前期	肯定率
18	私は、危機管理(防犯・防災・事故など)マニュアルを意識し、生徒の危機回避能力の育成に取り組んでいる。	10	4	0	0	3.7	3.5	100
19	本校は、防災・防犯計画・避難所運営マニュアル等が整備され、防災訓練等、実践的な安全教育が進められている。	12	2	0	0	3.9	3.7	100
20	本校は、校舎内外の施設・設備について定期的に点検改善がなされ、結果が生かされている。	11	3	0	0	3.8	3.7	100
VI 地域や保護者との関わりについて(全教職員が回答)		4	3	2	1	後期	前期	肯定率
21	本校は、保護者や地域住民、小中学校運営協議委員等の意見や要望を取り入れて、教育活動の改善を図っている。	10	4	0	0	3.7	3.8	100
22	本校は、各種たよりの発行、学校ブログの更新など、積極的に情報発信を行っている。	14	0	0	0	4.0	3.8	100

教職員反省アンケートから来年度に向けて～成果と考察・改善事項～

I 学校教育目標に関わって

- * 本校の実態に即した学校目標であり、教職員も目標の達成や目指す生徒像の実現に向けて取り組むことができた。
- * 学校教育目標の達成について、どんな場面でどのような姿があれば、達成あるいは目標に近づいているのか、職員間で生徒の様々な姿を共有し確認していきたい。
- * 職員全体として「ここを大切に目指したい」という共通認識や意識をもって今後も教育活動を進めていきたい。

II 学校経営と組織に関して

- * 職員の担う分掌に関して、得手不得手はあるが、課題にどのように取り組み克服していくのかが大切になる。職員間の連絡・相談・工夫をアクティブに行い、これからもチームとして指導を進めていきたい。
- * 様々な勤務形態の職員が働いている。協力して業務にあたっていくための情報提供等が円滑にできるようにしていきたい。
- * 小規模校であり、校務分掌に関して均等な仕事量にすることは難しい。諸活動の吟味・厳選も行いつつ、複数の教員で支え合いながら進めていきたい。

III 学習指導に関して

- * 校内研究のあり方等について考え、生徒にとって力のつく研究になるようにしていきたい。また、日々の実践の中で個に応じた指導をさらに心掛けて授業を組み立てていきたい。
- * 放課後学習会等については、生徒に「学び方」や「学習会の趣旨」を十分理解させてのぞみたい。
- * 授業において、振り返りの時間が取れないことがある。授業計画を綿密に行い、時間を確保することを心がける。また、地域人材を活用する取り組みを積極的に検討していく必要がある。
- * 自主的に学習する習慣を身につけさせ、家庭での学習習慣の定着を図りたい。
- * 基礎学力が定着出来るようどの生徒に対しても、学習のフォローをしていきたい。

IV 生徒指導、生徒理解に関わって

- * 生徒一人一人に向き合って取り組んでいる教職員が多く、生徒への対応も丁寧に行っている。
- * 言葉遣いや時間を守ることなど、日頃の生徒指導を丁寧に行っていきたい。まずは教員がやってみせ、生徒にも浸透させていきたい。
- * 個で対応するのではなく、チームとして様々な諸問題に対応できるように、今後も意識して取り組んでいきたい。

- * 子どもたちの問題行動にも悩みにも、早期発見・早期対応ができるのが小規模校の強みであり、今後も連携して対応していきたい。
- * 特別支援学級に関する情報交換は特に、お互いに声を掛け合いながら学年間、学校内で情報交換をしていきたい。
- * 共通理解や認識をより深め、家庭とのコミュニケーションを大切にしながら、連携し協力をしていきたい。

V 学習環境・生活環境に関わって

- * 今後とも危機管理マニュアルを意識した対応をしていきたい。また、防災訓練等についてもしっかりと内容を確認し、生徒にも意識づけをした中で今後も参加していきたい。
- * 生徒の健康安全に関わる生活環境について、今後も継続して環境整備を働きかけていきたい。

VI 地域や保護者との関わり

- * 今年度は70周年記念式典があり、PTAや学校運営協議会等との連携やつながりをしっかりとつることができた。生徒を支え導く大人たちが協力体制にあり、友好的な雰囲気であるということは学校環境としてとても大切なことである。
- * 学校ブログについて、生徒や保護者、その他関係者が多く興味関心をもってくれ、開かれた白州中教育にとって大変有効で有意味であった。
- * 他の学校と比較しても、本校は地域との関わりが多く、またその関わりを大切にしながら、諸活動の実践にあたっていると感じる。地域と共に歩む姿勢や保護者の声を真摯に受け止める姿勢をこれからも大切にしていきたい。

3 学校関係者評価会議より

実施日 令和7年2月21日（金） 15：00～17：15

会場 北杜市立白州中学校 ランチルーム

参加者 学校運営協議会委員

大輪しおり 依田 信二 山田 輝夫 高垣 瞳美 小林 永男 大輪 正文 清水 茂人
小林 栄一 伊東さえ子 井上 亨 北原 芳子 黒倉恵利奈 溝口 有紀 清水 道晃
吉原 仁実（委員以外の学校職員）小林 明子 藤澤 淳美 中山 聰子 進藤 由紀

1 [学校からの提案]

- ・「学校評価アンケート」の分析結果について

2 [全体的な話し合いと内容と評価]

○保護者アンケートを含め、設問項目はどのように決定しているのか。小中での設問の内容が違うが、共通の設問がある場合、比較ができ、違いもわかつて良いのではないか。

→ 小中それぞれの学校教育目標に沿った設問がある。また、発達段階に応じた質問の仕方をしている。

○家庭学習の習慣化があまりできていない生徒がいるようだ。放課後学習会やほくと学び舎などでも、自ら質問する生徒は少ない。自ら学ぼうとする態度を身につけさせたい。

○放課後学習会で生徒同士が教え合い、学び合う姿が見られ、とても良かった。大切にしたい姿だ。

○教職員自己評価では、地域の施設や人材活用について評価が低い。どのような場面（学習）でどんな人が必要か具体的に教えてほしい。

○学習面でも生活面でも難しい年頃だが、学園祭や合唱祭などの生徒の姿はそれが輝いて見え、素晴らしいだった。アンケートでの満足度も高く、良い環境なのだと思う。

○様々な家庭の状況もあり、簡単ではないと思うが、家庭と連携しながら義務教育後の道しるべ作りができると良い。先生方の仕事は多くとても大変だと思う。保護者や地域でできることがあれば声をかけてほしい。

○ICT活用など、教員業務の負担軽減を。

○アンケート結果や考察等また、授業や行事の参観から、子どもたちと学校の良さ、変容、改善している点がわかった。スリンプル・プログラムをさらに進めていってほしい。

4 成果の概要

4月に19名の新入生を迎える、令和6年度の学校生活をスタートした。今年度は、創立70周年の節目を迎える、PTAや学校運営協議会の協力をいただく中で、記念式典を挙行することができた。また、「こまさと祭（学園祭）」や「合唱祭」は、多くの保護者、地域の方々を招いて盛大に実施された。部活動においては、今年度も卓球部の活躍がみられ、県新人大会で団体優勝した。そのほか、吹奏楽部は県吹奏楽コンクール・アンサンブルコンテストでともに銀賞を受賞した。部活動以外にも各種大会への入賞があり小規模校でありながらも生徒の活躍が著しく、充実した白州中教育を進めることができた。

白州小・中学校運営協議会は、5月、10月、2月に開催し、「地域とともに創る学校」を目指し、精力的に話し合いが行われた。今年度は、3つの部会（学習支援、環境整備、安全・防災）が、それぞれに計画した活動を進めた。今後さらに地域と連携した学校づくりが進むものと思われる。

小中学校の連携においては、予定通り年2回の合同職員研修による相互授業参観を行うことができた。各学校での授業の様子や児童生徒の様子を参観でき、共通理解がなされたことで今後の双方の教育活動につながり、次年度以降も継続していきたい。また、小学校6年生対象に「白州中体験授業」を実施し、今年度は中学校の社会科の授業体験を行った。児童には、中学校の雰囲気を感じてもらい、「わかりやすかった」「楽しかった」という感想が多かった。また、6年生の保護者も参観に訪れ、本校の教育活動を見てもらう良い機会となった。

健康保持増進対策として、今年度も食育の充実について取り組んだ。栄養教諭による食事のマナーや姿勢の指導をしていただき、感謝の気持ちを持ちながら喫食し、残食も減らすことができた。また、給食委員会によるクイズ等の取り組みも行い、楽しみながら給食の時間を過ごすこともできた。

「全校合同朝の会」においては、規範意識の向上のための自治的な取り組みを行った。さらに生徒会活動・学級会活動・学校行事等で、一人一人が主役となる活動、協働して取り組む機会等を充実させることで、生徒の居場所づくりや絆づくりを図り、自己有用感や自己肯定感がもてる生徒の育成に努めることができた。様々な活動や行事を通して生徒一人一人が、役割や責任を果たす取り組みは、互いのよさを認め合い、敬愛の心を育む機会となった。

学園祭には、延べ240名の保護者や家族の方が来校し、当日は、生徒の成長した姿を見ていただき、学園祭を創りあげていただいた。

合唱祭も、歌声が響き渡る素晴らしいホールで開催することができ、多くの方々に好評をいただいた。

小規模校を生かし、TTによる学習指導の授業を行うことで、基礎的な知識や技能の定着を図ることに努めた。主体的・対話的で深い学びにつなげるためには、生徒が学ぶことに興味や関心を持ち、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげることが重要になることから、ICTを活用することを校内研究の柱とした。さらに山梨スタンダードによる「めあての提示、見通し・振り返り」を意識した授業実践も行うことも意識して取り組んだ。特に今年度は、学級づくりの研究会を行い、充実した校内研究を進めることができた。また、本年度も多くの人材を外部講師として、教科・総合的な学習・道徳・特別活動等に積極的に活用し、これから社会を生き抜く力を醸成してきた。

情報の発信としてのホームページやブログを定期的に更新し、学校の様子や生徒の頑張りができるだけタイムリーにお伝えできるようにした。

これらの活動については、保護者や地域の方々に温かく見守られ、白州中の教育が進められることに感謝したい。

5 来年度への継続・改善事項

1 誇りをもてる学校

- 学校で学習したことや習得したことを地域や家庭に積極的に発信し、地域で活躍できる生徒を育成する。
- あいさつも含めた礼儀や規範意識を高め、白州中学校の生徒として、地域で自信をもって自己表現できる生徒を育成する。

2 主体的に学習に取り組む生徒

- 少人数であることを生かした指導や補充的な学習の充実を図り、基礎的・基本的な知識や技能を習得させ、「個別最適な学び」を推進する。
- 主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、「協働的な学び」を推進する。
- ICT機器を活用し、主体的に必要な情報を収集、判断、表現、創造し、発信、伝達できる実践力を養う。

3 「学びの甲斐善八か条」を活用した家庭学習の充実

- 家庭学習への取り組みの見直しを校内研究で取り上げ、「家庭学習記録表」を引き続き、活用する。また、懇談等を通して、家庭と情報を共有することで生徒の家庭学習への取組を支援する。
- 全ての教科授業において「めあての提示、見通し・振り返り」を実施し、家庭学習と有機的につなげる。
- 全国学力学習状況調査、山梨県学力把握調査、教育課程到達度検査等の結果を分析し、課題改善のために、生徒の実態にあった授業改善をする。

4 学習に粘り強く取り組む態度とICTを活用した授業実践

- ICT活用を校内研究の柱の一つとし、一人1台端末を授業で活用する場面についての研究を推進する。また、課題解決学習、課題探究学習、体験学習、調査学習等を仕組みグループ・ディスカッション、グループ・ワーク等による協働型の授業を研究する。
- 学力向上推進事業を活用し、家庭学習の充実に努める。
- 教育者としての幅広い視野・人格・見識・使命感をもち、生徒に対する教育的愛情、教科等に関する専門的知識、広く豊かな教養、それらを基盤とした実践的指導力を身につけていく。

5 特別支援教育の充実

- 専門性の向上を目指し、指導方法の工夫や授業展開の改善を図る。
- 小学校と連携し、個別の教育支援計画、個別の指導計画を活用・充実させ、生徒の自立を図っていく。
- 教育支援センター「エール」やSC・SSW等の外部機関との連携を図る。また、「ステップルームひまわり」を効果的に運用し、不登校生徒へのきめ細かな対応をする。

6 愛情と信頼に基づく「みんなで育てる生徒指導」「いじめを許さない集団の構築」

- 生活アンケート等から得た情報を教職員で共有し、組織的に生徒指導に取り組むと共に、全職員が生徒理解に努める。
- 生徒総会における「いじめ撲滅宣言」等の自治活動を推進し、規範意識の向上と他者を思いやる心を育む。
- S Cの面談や職員による個別相談の充実を図り、情報の収集と早期対応に努め生徒一人一人に寄り添った生徒指導に心がける。
- 生徒会活動、学級活動、部活動、学校行事を充実させ、生徒の居場所づくりに努める。

7 道徳授業の充実と道徳的実践力の向上

- 道徳の授業において様々な題材を多面的・多角的に捉え、「考え方論する道徳」「自己課題としての道徳」へと質的転換をして、しなやかな心の醸成に努め「命を大切にする心」「思いやりの心」「いじめを許さない心」「正しいことを行おうとする心」を育てる。
- 人間関係づくりを中心に据えて、体験活動で自己肯定感、学校行事で自己有用感を育むことで、現代の社会環境の変化に対応できるたくましい生徒の育成をめざす。

8 読書・体験活動、文化芸術活動から豊かな人間性、社会性を育む

- 読解力と豊かな感性を高めるため、朝読の習慣化の徹底を図る。
- 家読については、PTA活動と連携し推進する。
- 芸術鑑賞教室等を通して、一流の芸術に触れ、感性を磨くと共に、こまさと祭文化部門、合唱祭等で表現力豊かな発表ができるよう指導する。

9 「いのち・体力・健康・食・安全」を大切にした生活習慣

- 生徒の安全確保のために、日課表を見直し完全下校時刻を変更する。
- ICTを活用した健康チェックを実施する。
- 道徳の授業や命の授業等を通して、「命を大切にする心」を育む。
- 「SOSの出し方やSOSの受け止め方」に関する教育を実施し、他者に助けを求めてよい事を伝え、友人の危機に気付いたときの対応方法等を理解させる。
- 部活動の充実、全校レクレーション等の取り組みにより、体力の向上と粘り強い心の育成に努める。
- 委員会活動を通じて安全教育や食育を推進し、健康増進、安全に努める。

10 生徒会活動の活性化

- 生徒総会や中央委員会を自治的活動と捉え、学校における様々な取り組みや活動を「自分事」として捉えさせ、協働的に解決する力を育む。
- 生徒会の行事を充実させ、生徒による楽しい学校づくり・生徒自身によるルールや規範作りを支援する。
- 生徒会活動の時間確保と充実を図り、生徒会行事を通して、一人一人が充実した学校生活となるよう支援する。特にあいさつ運動、ボランティア活動の取り組みを推進する。

11 キャリア教育の充実

- 1学年では職業調べや進学先調べ、2学年では地域の事業所の協力を得て、職業講話や職場体験・体験報告会、3学年では高等学校のオープンスクールへの参加を通して、キャリア教育の充実を図る。
- 復習テストや教育課程到達度確認検査を活用しながら、自ら進んで課題を克服する姿勢を育て、進路実現に向けた意欲の向上を図る。
- 進路について考え自己実現に向けての支援を図る。
- キャリアパスポートを活用した学習、社会と関連付けた教育、社会人としての資質能力の育成に努める。
- 1学年より積極的に進路情報を提供し、家庭と連携して早めの準備を行っていく。

12 情報の積極的発信と地域に貢献する生徒の育成および学校運営の基盤づくり

- ホームページやブログ、安心メール、学校・学年・学級のたより、PTA活動などの情報提供を迅速に行い、学校の様子や予定、教育情報などを広く発信する。
- 地域人材を教科・生徒指導・道徳・職場体験学習・部活動等で積極的に活用し、地域と連携して生徒を育成することで、地域に学び、地域を知り、地域に貢献する生徒の成長に努めていく。
- 地域行事に積極的に参加・協力し、地域の一員としての地域愛を育む教育を進めていく。
- 白州小・中学校運営協議会と連携し、「地域と育む学校づくり」を推進する。

13 教師力を高めた学校運営

- 教師がICT機器を効果的に活用して授業実践を行うことで、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、学習者主体となるよう、積極的に授業改善に取り組んでいく。
- 研究授業を実践し、外部講師を招いてICTの研修会や学級づくりの研究会を実施することで指導力向上を目指した校内研究をおこなう。
- 日々の教育活動を通じてOJTを実施し、教職員が支えあい、学びあうことを推進する。
- 個別最適な学びの研究を進め、生徒が自分に合った学び方を身につけるようにする。